

「グローバル」に学び、北海道から世界へ。 Otaru University of Commerce

企画：朝日新聞社メディアビジネス局
制作：AERA ムック編集部

広告特集



「ええんちゃう」のゲストハウスの名前は「順風満帆」。ゼミ生27人で運営。接客や掃除もシフトを組んで全員で担当する



打ち合わせも定期的。左から中野さん、北市さん、天満さん

樽の生活文化を楽しむ、地域と交流できる場。駅から離れた住宅街にある立地条件も理由だが、何より「観光だけではない小樽の魅力が現れている」と考えたからだ。

専門の理論を生かす
ビジネスの実体験

合同会社の代表社員を務める商学科3年の北市圭人さんは、「輪読などで叩き込んだマーケティングの理論を生かすための

実践の場となりました」と、開業までの日々を振り返る。資金調達にはインターネットを通して資金を募るクラウドファンディングを利用しながら、小樽商大の同窓会、北海道内外の経営者など、賛同してくれそうな人にも会いに行ったり。相手はビジネスで自給自足の強者ばかり。「どうやって黒字にするのか」「10年後のビジョンは」など厳しい質問を浴びた。経済学科3年の天満康美さんも資金集めを担当した。

「小樽の学生の手で小樽を活性化させたい、という思いが強くありました」そうした学生たちの信念は周りに巻き込んだ。そのうちの1人、空き家を提供し改修を行った阿部建設株式会社の中野諭さんは、こう話す。



情緒あふれる和室も楽しめるゲストハウス

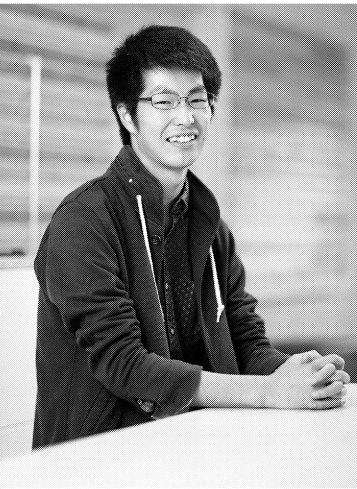
From Students

1 大阪から小樽へ。
小樽だからこそできる
学びが充実しています

大阪府箕面市の出身です。父が小樽商科大学を勤めてくれました。小樽に初めて来たとき、海がすぐそこに見えて、関西とは全く違う世界にワクワクしたのを覚えています。「マジプロ」というプロジェクトベースの授業では、小樽市のレンタルサイクル店と協力し、お客さんの了承を得て自転車にGPSを付け、どういう場所に行っているかを調査。それを元に、地元民だからこそ知っているお勧めスポットを載せたサイクリングマップを作りました。所属している江頭進教授のゼミでも小樽経済の活性化がテーマの一つです。スキーや海のスポーツなど自然の中での遊びも満喫しました。都市圏ではできない学びや体験ができます。

商学部経済学科4年
赤松蒼生さん2 ギャップイヤーのおかげで
大学でしっかり学ぼうという
意識が高まりました

2019年度から入学を1年猶予し、大学入学前に長期の海外留学ができるギャップイヤー制度が始まりました。私はこの制度の試行プログラムを利用し、1年次の8～12月、海外留学に挑戦。留学先では、さまざまな国の友人と刺激し合い、英語力が飛躍的に伸びたとともに、帰国後は世界そして地元についてもっと学びたいという思いを抱きました。通常、3年次に交換留学する場合が多いですが、それでは帰国後すぐに就職活動をする必要に迫られます。しかし、このプログラムを使えば大学生活は帰国後、まるまる4年あり、留学での学びを生かすには十分な時間です。この制度で多くの人に早い段階での海外留学に挑戦してほしいです。

商学部商学科2年
片倉玄太さん

小樽商科大学

Otaru University
of Commerce2019
国公立大学
進学のおすすめ
BUILD YOUR FUTURE実学とグローバル教育
地域から世界を視野に

国公立大学で唯一の規模を誇る商学系の単科大学として、ビジネス教育を強みとしてきた小樽商科大学。学科の講義やゼミなど理論を学ぶ場と、ビジネスを実践する場を設け、それらを往復し、繰り返すことで実力がつく教育制度を整える。

「学生が理論と実践のギャップを知り、それを埋めるために次に学ぶべきことを発見することが大事だと考えています」小樽商大の江頭進理事・副学長は教育の意図をこう話す。国際教育にもこの理念を取り入れる。1年次に全員が履修できる「事情科目」では、食費程度で参加できる3週間の海外語学研修プログラムを用意。2019年度からは入学試験合格後、大学入学までの猶予期間「ギャップイヤー」を本格導入した。グローバルマネジメント副専攻プログラムでは留学生も一緒に英語で学ぶ経済・ビジネス

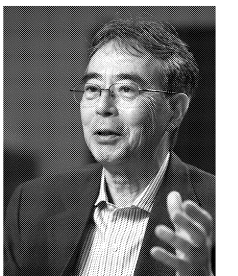
の授業もある。「これからのビジネスには語学力と国際理解力が必須。早い時期に留学し、自身の力の足りなさを知って、2年次以降の長期留学につなげます。何度も行き、その度に課題を見つけてくる組み合わせ」(江頭理事・副学長)専門の基礎力や教養、そして国際コミュニケーション力——こうした実践のための土台を築いた学生たちは、実際にビジネスの「現場」に身を置く。ユニークなのが、正課科目の「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」(通称マ

ジプロ)だ。官公庁や企業、地域の人たちがかわりながら、チームで街の課題解決プロジェクトに取り組む。その成果をまとめ、プレゼンテーションすることで次の学びに生かされる。ゼミでも、商品企画や販売先の開拓など、企業の実務をそのまま実践する実学主義を重んじる。さらに、ゼミが発展して起業に至るケースも多い。大学も企業活動ができる起業サポートルームを作るなど積極的に支援。現在、学生ベンチャー企業7社が立ち上がっている。その1社が猪口純路教授の

マーケティングゼミに所属する学生たちが起業した合同会社「ええんちゃう」だ。主な事業は小樽市内の空き家を改修したゲストハウスの運営。社名は学生たちのやりたいことを「ええんちゃう」と否定しない猪口教授の口癖から取った。



緑あふれるキャンパス。この秋に図書館がリニューアル

President's
Message
[学長メッセージ]「グローバル」教育を
力強く推し進める
新コースが誕生

和田健夫学長

商 学部の下に四つの学科(経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科)を有する小樽商科大学は、ビジネスを学ぶ単科大学として、道内外に多くの経済人を輩出してきた。「開学以来、教育のモットーを『実学・語学・品格』としてきました。専門分野の知識と幅広い教養を養い、その上で体験によって実践的スキルを磨くことを実学教育と考えています」

和田健夫学長は教育の理念をこう話す。この実学教育を発展させ、現在は国際教育と地域活性化を同時に学ぶ「グローバル」教育を推進している。「グローバル時代の地域マネジメントの拠点として、北海道経済の発展に貢献することを目指しています」4学科の専攻に加え、学科横断型の「グローバルマネジメント副専攻プログラム」がある。2021年度には、主専攻プログラムとして「グローバルコース」をスタートさせる予定だ。グローバルに活躍できるビジネスの基礎知識と応用力はもろろん、異文化理解能力、卓越した言語コミュニケーション力を養うカリキュラムを用意する。英語で行う基礎ゼミや経済・商学科目の授業も開講し、なかには留学生と一緒に学ぶクラスもある。すでに始まっているギャップイヤーを活用、充実させて、海外留学を必修化する方針だ。学生が主体となる地域の課題解決プロジェクトには、これまでも取り組んできた。また、ゼミが発展して起業に至り、学生たちが経営者として活動していることもめずらしくない。

和田学長は思いをこう話す。「今後、革新的に変わっていく社会に対応するには常に学ぶことが大事。学生には大学でいろいろな体験をし、学び続ける姿勢を養ってほしいと思います。また、本学はマーケティング、マネジメント、アカウンティングを始めとして、ビジネスの世界で活躍したい人に必要な教育が充実していますので、ぜひめざしてほしいですね」

北に一星あり
小なれどその輝光強し

必ず留学したい高校1・2年生は

グローバルビジネスで通用する人材を育成する新カリキュラム

グローバルコース 2021年
4月開始1年次までの
留学必修ビジネス・経済を
留学生と英語で学ぶ地域課題解決を
通じて実践で学ぶ

いち早く留学したい高校3年生は

2019年4月にスタートした新しい留学のカタチ

ギャップイヤー制度

入学を1年間
猶予し長期留学留学後に改めて
小樽商科大学に入学

小樽商科大学は「仙台会場」でも受験できます

●昼間コース(一般入試前期日程/専門・総合学科) ●夜間主コース(一般入試前期日程)

オープンキャンパス 8/8(木)

詳しくはwebサイトへ▶

小樽商科大学 受験生サイト

検索



国立大学法人

小樽商科大学

経済学科

商学科

企業法学科

社会情報学科

お問い合わせ 国立大学法人 小樽商科大学 総務課総務係 TEL.0134-27-5207